中野区高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画（案）

計画素案からの主な変更箇所

※下線部分が追加・変更箇所

No	計画案	計画素案
1	<p>1 計画の概要 (1) 計画の趣旨と位置づけ (略)</p> <p>そして、次のステップとして、高齢者だけでなく障害者や子どもと子育て家庭を含めたすべての人を対象とした地域包括ケアシステムの構築を進める中で、高齢者の増加に合わせて地域包括ケアをより深化させていきます。</p>	<p>1 計画の概要 (1) 計画の趣旨と位置づけ (略)</p> <p>そして、次のステップとして、高齢者だけでなく障害者や子育て世帯を含めた全世代型の地域包括ケアシステムの構築を進める中で、高齢者の増加に合わせて地域包括ケアをより深化させていきます。</p>
2	<p>(2) 計画の期間と進捗状況の確認 (P D C Aサイクルの推進・好循環)</p> <p><u>介護保険法第 117 条において、特別区を含む市町村には 3 年を 1 期とした介護保険事業計画の策定が義務づけられていることから、本計画は令和 3 年度(2021 年度)から令和 5 年度(2023 年度)までを計画期間として</u>います。</p>	<p>(2) 計画の期間と進捗状況の確認 (P D C Aサイクルの推進・好循環)</p> <p><u>介護保険事業計画は、3 年を期間とした計画を策定することが介護保険法で定められていることから、第 8 期介護保険事業計画については令和 3 年度(2021 年度)から令和 5 年(2023 年度)までを計画期間と</u>しました。</p>
3	<p>4 中野区のこれまでの取組と 20 年後を見据えた課題</p> <p>(1) 地域共生社会実現のための地域包括ケアシステムの成果と 2040 年を見据えた課題 (略)</p> <p><u>国の認知症施策推進大綱では、平成 30 年(2018 年)に、認知症の人の数は 500 万人を超え、軽度認知障害(MC I)を含めると 65 歳以上の高齢者の 7 人に 1 人が認知症と推計されています。別の調査研究では、令和 22 年(2040 年)には最大で約 4 人に 1 人が認知症になるという推計も出されています。</u></p>	<p>4 中野区のこれまでの取組と 20 年後を見据えた課題</p> <p>(1) 地域共生社会実現のための地域包括ケアシステムの成果と 2040 年を見据えた課題 (略)</p> <p><u>国の認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)では、令和 7 年(2025 年)には高齢者の約 5 人に 1 人が認知症になるという推計が示され、さらに令和 22 年(2040 年)には最大で約 4 人に 1 人が認知症になるという別の調査研究結果も出されています。</u></p>

4	p. 23	<p>第1節 課題1 総合的な介護予防・生活支援 ■現状と課題 (略) 事業への参加者が固定されないよう、「介護予防」という名称を、具体的に区民にアピールでき、「我が事」として意識されるような呼び方に替えることも必要です。</p>	<p>第1節 課題1 総合的な介護予防・生活支援 ■現状と課題 (略) 事業への参加者が固定されないよう、「介護予防」という名称を、具体的に区民にアピールでき、<u>敏感に感じられるような呼び方に替えることも必要</u>です。</p>
5	p. 25	<p><施策1>総合的な介護予防・生活支援の推進 ■主な取組 ①高齢者の健康づくり・介護予防の普及啓発事業の充実 (略) <u>また、口腔機能の衰えは、筋力等の身体機能の低下より先に訪れます。</u>高齢期の早い段階でフレイルに気がつき、進行を防ぎ、あるいは回復できるよう、高齢者の健康づくり・介護予防の取組を積極的に進めていきます。</p>	<p><施策1>総合的な介護予防・生活支援の推進 ■主な取組 ①高齢者の健康づくり・介護予防の普及啓発事業の充実 (略) 高齢期の早い段階でフレイルに気がつき、進行を防ぎ、あるいは回復できるよう、高齢者の健康づくり・介護予防の取組を積極的に進めていきます。</p>
6	P. 35	<p><施策1>認知症とともに暮らすための地域支援体制の構築 ■主な取組 ①認知症への理解促進と地域での対応力の向上 講演会や研修、展示等の実施や中野区版「認知症ケアパス人生100年時代の備え！認知症安心ガイド」の発行(更新)により、認知症について区民や関係機関の理解を更に<u>促進するとともに、認知症について相談できる窓口の周知を進め、小さなきっかけから、予防や受診につながる可能性を広げていきます。</u></p>	<p><施策1>認知症とともに暮らすための地域支援体制の構築 ■主な取組 ①認知症への理解促進と地域での対応力の向上 講演会や研修、展示等の実施や中野区版「認知症ケアパス人生100年時代の備え！認知症安心ガイド」の発行(更新)により、認知症について区民や関係機関の理解を更に<u>促進します。</u></p>
7	p. 36	<p>⑥認知症の人本人や家族、支援者等への支援や居場所づくり 地域において認知症の人本人や家族、支援者が孤立をしないために認知症の人本人や家族、支援者が通うことができ、<u>専門的な相談ができたり、気軽に情報交換ができる身近な地域拠点を整備し運営の支援を行います。</u></p>	<p>⑥認知症の人本人や家族、支援者等への支援や居場所づくり 地域において認知症の人本人や家族、支援者が孤立をしないために認知症の人本人や家族、支援者が通うことができ、<u>相談や情報交換ができるオレンジカフェ等の身近な地域拠点を整備し運営の支援を行います。</u></p>

8	p. 43	<p><施策2>住み慣れた地域で暮らし続けるための住まいの確保</p> <p>■主な取組①高齢者のための住宅の確保 (追加記載)</p> <p><u>さらに、行政(住宅部門、福祉部門)、不動産関係団体、居住支援団体等が連携し一体となった居住支援協議会の効果的な事業運営により、生活支援が必要な高齢者と受け入れ先の賃貸人の双方に対し、入居時から退去時まで切れ目のない適切な支援を行います。</u></p>	<p><施策2>住み慣れた地域で暮らし続けるための住まいの確保</p> <p>■主な取組①高齢者のための住宅の確保 (略)</p>
9	p. 50	<p>■実現すべき状態</p> <p>地域包括支援センターやケアマネジャーが作成するケアプランにおいて、心身機能だけでなく、活動、参加の視点を取り入れるとともに、<u>支援内容の適正化が図られ、対象者は、それに基づいた支援を受け、人としての尊厳を持って家庭や地域でその人らしい生活を送っています。</u></p>	<p>■実現すべき状態</p> <p>地域包括支援センターやケアマネジャーが作成するケアプランにおいて、心身機能だけでなく、活動、参加の視点を取り入れるとともに、<u>支援レベルの適正化が図られ、対象者は、それに基づいた支援を受け、人としての尊厳を持って家庭や地域でその人らしい生活を送っています。</u></p>
10	p. 56	<p>④介護サービスの提供を担う民間サービス事業者に対する指導監督業務の効率化等 (追加記載)</p> <p><u>さらに、ICT化の推進のための補助制度等を活用することで業務を効率化し、質の高い介護サービスの提供や増え続ける介護需要に対応する事業所を支援します。</u></p>	<p>④介護サービスの提供を担う民間サービス事業者に対する指導監督業務の効率化 (略)</p>
11	p. 57 ～ p. 115	<p>第2節 介護サービス等の見込量 (差替え・追加記載)</p> <p>第3節 <u>介護保険事業費の見込み及び保険料</u> (追加記載)</p>	<p>第2節 介護サービス等の見込量 (略)</p>